

No 12

Model House Report

Builder /
HUCOS 協同建設

Note /
コンセプトハウス
長野市松代町

人と自然がつながり共生する

HUCOS 協同建設が従来の省エネ性能や

快適性を追求しつつ、

自然素材や自然エネルギーを最大限に活用し、
より環境に配慮した家づくりに
取り組みはじめました。

これを具現化したものが

同社のコンセプトハウスです。

中に据えられたのは土でできた蓄熱ドーム。

このシンボリックな空間で、
コンサルタントとして関わった建築士と

環境設備エンジニアが、

HUCOS 代表と鼎談しました。



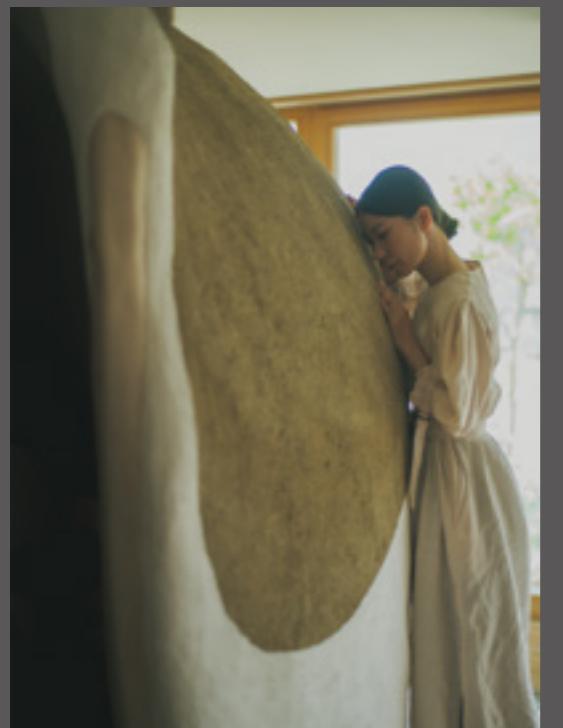
Facade

1階外壁は長野県産のカラマツを使用。2階は間隔をあけて端材を張った。いずれも無塗装で経年変化していく。外壁材の内側には構造材も兼ねる120mm厚のタテログ、そして120mmの木質吹き込み断熱、さらに60mmの木質ボードで覆う。木材の断熱性能と熱を蓄える蓄熱効果によって、外気の影響を受けにくい快適な室内環境を維持できる。



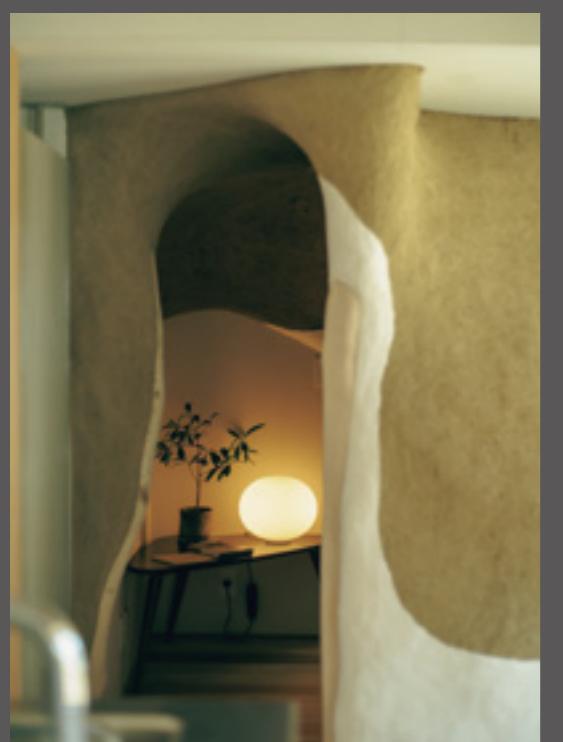
Terminal Dome

コンセプトハウスの中に設けられた蓄熱ドーム。「土は家の中で使う方が蓄熱効果を得やすい。遊び心だけじゃなく、きちんと理論に基づいているんです」



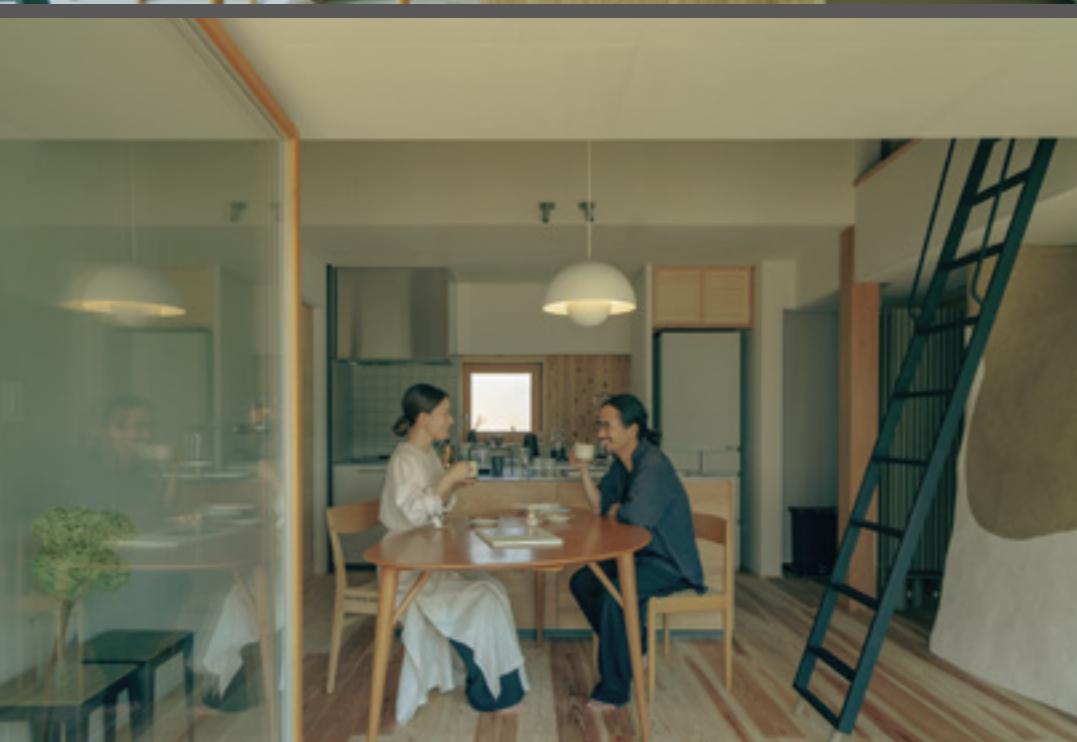
Structural Materials

角材(ログ)を縦に連ねた「タテログ」。現代の家づくりでは柱の間に石膏ボードや合板を入れるところを、いわば柱を並べたタテログが家を支え、内装仕上げも兼ねる。石膏ボードは産業廃棄物にしかならないが、タテログはリサイクル率が高く、CO₂を吸収して炭素として固定する。どこでも生産可能で、地域の林業の活性化につながる。



Doma Floor

和室をつなぐ通り土間には、踏石と蓄熱材を兼ねて、地元の柴石の古材をアップサイクル。





Profile

佐藤 欣裕 (さとう・やすひろ) / 写真右

有限会社もるくす建築社代表取締役社長、佐藤欣裕建築設計事務所代表。1984年生まれ、秋田県在住。独学で建築を学び、2012年に父の会社を継ぎ、代表に就任。欧米のサステナブル建築に影響を受け、自然素材を重視した設計を展開。環境調和と快適性を両立させる「原理的な住まい」を追求している。

蒔田 智則 (まきた・とものり) / 写真左

henrik-innovationシニア環境設備エンジニア、通称「空気のエンジニア」。1980年生まれ、デンマーク在住。日本大学理工学部土木工学科卒業、イギリス・グリニッヂ大学大学院・デンマーク工科大学大学院修了。コペンハーゲンを拠点に国内外で環境と調和する建築づくりに取り組んでいる。

斎藤 洋一 (さいとう・よういち) / 写真中

協同建設株式会社代表取締役社長。1977年生まれ、長野市在住。2002年、父の会社に入社し、地元に根差した「HUCOS」ブランドの住宅デザインを開発。2013年に代表就任。2026年「自然がつながり共生する」のコンセプトを掲げ、ブランドを一新し、自然素材を多用する家づくりを行う。

出せず、かつ新築時においても古材を活用して建物を継承する——こうした循環型の住まいづくりを実現していました。

佐藤さんが抱いた斎藤さんの印象は「秋田と同じ寒冷地である長野で省エネルギーや快適性を追求して、とても親切な家づくりをしてきた人」。しかし斎藤さんは「これまで環境負荷への考えが浅かった」と自省し、これから家のづくりについて思いを巡らせました。

そんな斎藤さんを佐藤さんは欧州視察に誇り、デンマークの蒔田さんを訪ねます。蒔田さんは高いサステナビリティを実現

しつつ、デザイン性豊かなデンマーク建築を紹介する本を著しましたばかり。

実際に建物を見学して「欧洲ではCO₂削減への考え方方が日本では想像できないくらい進んでいる」ことを目の当たりにし、た斎藤さんは、森林資源を循環させ、100年先の未来を見据えた家づくりへと舵を切ったのです。

佐藤さんが建築デザイン、蒔田さんがバッジブデザインで関わったコンセプトハウスは、「タテログ工法」で建てられました。タテログとは、一定に切りそろえた木材をビスで緊結して木の壁と

するもの。木材を耐力・防火・断熱・調湿・仕上げに生かします。家の内部には土や石を蓄熱体として採用しています。なかでもシンボリックなのが地元産の土でできた蓄熱ドーム。曲面壁の内部は居心地のいいライブラリースペースになっています。「この家は宿泊施設としても使うので、外からの目線をさえぎり、中にこもれるようにしました」と佐藤さんは話します。

蒔田さんは「最初に僕が言ったコンセプトハウスは、「タテログ工法」で建てられました。タテログとは、一定に切りそろえた木材をビスで緊結して木の壁と

人と自然がつながり共生する——これはHUCOS協同建設が2026年のリブランディングにあたり掲げたコンセプトです。これまでどおり省エネ性能や快適性を追求しつつ、自然素材や自然エネルギーを最大限に活用し、より環境に配慮した家づくりに取り組みはじめました。こ

れをよく表現しているのが2025年夏に完成したコンセプトハウスです。

コンセプトハウスの建設にあたって、一級建築士の佐藤欣裕さんと環境設備エンジニアの蒔田智則さんがコンサルタントとして参画しました。佐藤さんは秋田市・もるくす建築社の代表取締

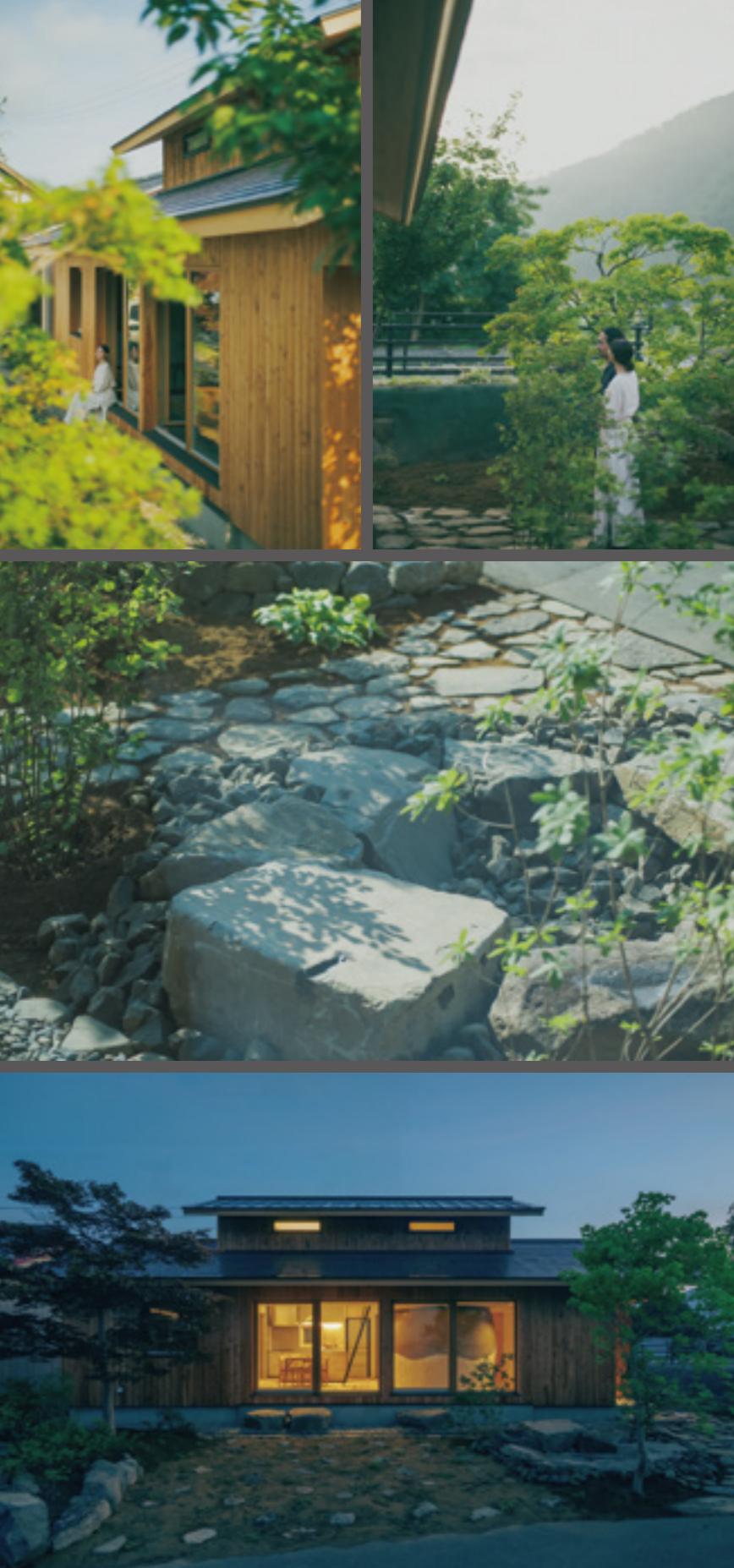
HUCOS代表取締役の斎藤洋一さんが二人と出会ったきっかけは、スタッフとともに研修

役を務め、意匠と環境性能を両立させた家づくりに定評があります。蒔田さんは「空気のエンジニア」の異名をもち、デンマークを拠点に国内外で活躍しています。

HUCOS代表取締役の斎藤洋一さんが二人と出会ったきっかけは、スタッフとともに研修

役を務め、意匠と環境性能を両立させた家づくりに定評があります。蒔田さんは「空気のエンジニア」と感じるほど環境性能に元だ」と感じるほど環境性能に徹した建築でした。

斎藤さんが「自分たちとは異次元だ」と感じるほど環境性能に元だ」と感じるほど環境性能に徹した建築でした。



HUCOS

Humanity & Nature
Connected
Sym

HUCOS 協同建設株式会社

〒381-1221 長野市松代町東条201

TEL 026-278-2976

